2025年度　町田市立鶴川中学校　学校経営計画・学校評価報告書（自己評価・学校関係者評価）

令和8年1月23日

学校教育目標　「自主・自律」自ら学びよくわかるまで努力する生徒　「敬　愛」豊かな心と思いやりのある生徒　「協　働」進んで働き協力する喜びを知る生徒	学校経営の重点　自他の生命を尊重する意識や態度を高め、人権課題を身近な課題として捉えて取り組み、実践しようとする生徒を育てる。
○目指す学校像・・・・・・・・『明日の登校を楽しみにできる学校』（1）「笑顔」と「あいさつ」に満ちあふれた学校 （2）「生きる力」を身に付け、可能性を伸ばし将来の夢を育める学校 （3）コミュニティ・スクールとして、地域・保護者に信頼され、連携して共に歩むことができる学校 ○目指す生徒像・・・（1）世界的な視野に立ち、主体的に行動する個性と創造性にあふれた品性豊かな生徒（人間尊重・社会貢献） （2）自ら学び、よく分かるまで努力する生徒（自主・自律） （3）豊かな心をもち、生命や人権を尊重する思いやりのある生徒（敬愛） （4）進んで働き協力する協力する喜びを知る生徒（協働） （5）健康な生活を送るために、規則正しい生活習慣を身に付けた生徒 ○目指す教師像・・・（1）「町田市教育プラン2024－2028」に基づき、教科センター方式（教科教室型校舎）の特性を活かした教育を展開する。特に各教科でタブレット端末をはじめ、ICT機器を効果的に活用し、「確かな学力」と「非認知スキル」を身に付けさせ、社会の持続的な発展を牽引するグローバル人材を育てる。【知】 （2）教科教室型校舎による指導を生かし、各教科の特質に応じた学習指導を実践して「確かな学力」を育成する。【知】 （3）不登校、いじめなど心ない行動の根絶を目指し、豊かな心の涵養を通して、生命や人権を尊重する態度を養う。また、特別の教科　道徳の授業を充実させ、思いやりや正義感、公正さ、生命の尊さを重んじる心の教育を推進する。【徳】 （4）「体力向上推進プラン」に基づき、運動やスポーツの魅力や楽しさを実感させて体力向上を図ると同時に、環境に応じつつ生涯を通じて健やかに過ごせる体を育成する。【体】 （5）生徒の気持ちに寄り添った支援を心がけ、人格の完成をめざして生徒の反省と成長を促す指導を実践する。	重点目標の成果と課題 成果：「明日の登校を楽しみにできる学校」とすることを校内の目指す生徒像として、全教職員が意識し、生徒理解や生徒指導に当たっている。その成果として、生徒・保護者の肯定的評価も85%・87%となっている。不登校や不登校気味の生徒が学校とつながるための居場所づくりになるよう、校内にフリースペースを配置する取り組みを行っていることや、「町田市教育プラン2024－2028」に基づいて、各教科でのタブレット端末の活用やデジタル黒板の使用などのICT機器を効果的に活用していることも評価されていると考える。ホームページでの情報提供やtetoru連絡システムでの情報配信など、多くの情報をタイムリーに発信することを目指して保護者への連絡や広報ができていることが、教員の努力とともに地域・保護者からも評価を得ている。教員は呼称を含め、丁寧な言葉づかいで指導・支援することを継続しており、自然な雰囲気で温かな人間関係を構築しようと努めている。人権尊重の意識を持たせる指導の成果もあり、生徒は落ち着いた雰囲気で学習することを目標として努力している。教職員はさらに学習環境を整えていくように研修と実践を深めようとしている防災。教育の取組として、各家庭での非常食の実食体験を継続し、非常用備品に対する生徒・保護者の意識も高まっている。毎月の避難訓練の指導も充実させ、様々な災害への意識を高める。 課題：家庭学習の定着が64%という状況の改善は課題である。各家庭の状況や習い事などがあり、放課後学習教室を週2回行っているが、学習ボランティアの人数よりも少ないことがありtetoru配信を行って呼びかけている。一人一台端末の活用方法の指導を深め、非認知スキルの向上に取り組み、自己調整力を身に付けさせる。NIEとして、新聞を読む機会を増やし投稿活動を継続しているが、学年による投稿機会の差を補うべく社会科を中心として全校で取り組むキャンペーン活動を検討していく。積極的な読書の習慣も身につけさせたいが、現在行っているビブリオバトルの充実を図ることや異学年交流の取組に発展させるなどして、本の魅力を伝える機会を設定する。規範意識を高めることに対して、生徒・保護者の自己評価は92%・85%と高い一方、教員の評価は55%と低い。保護者に学校に気軽に来校して学校の様子を見ていただく機会を増やす。基礎学力や、ネットリテラシーの定着度も教員と生徒・保護者のギャップがある。共通理解する機会やPTA活動での交流などをとおして、意識の調整を図る。

領域	教育プランに基づく経営目標	中期・短期経営目標	具体的方策	取組指標	平均	評価	成果指標	○%	評価	分析コメント	改善策	学校関係者評価記入欄	評価
社会に開かれた教育課程の実現	目指す学校及び子どもの姿を家庭や地域社会と共有・連携した教育課程を実施する。	変動する社会に対応し、教育活動の情報提供や収集を通して、教育活動への理解を求める。	学校だよりや関係機関の情報の掲載等を含め、ホームページの更新を効果的に行う。	4　月平均4回以上の更新 3　月平均3回以上の更新 2　月平均2回以上の更新 1　月平均2回未満の更新	50回/月	A	4　保護者アンケート肯定的評価90%以上 3　保護者アンケート肯定的評価80%以上 2　保護者アンケート肯定的評価70%以上 1　保護者アンケート肯定的評価70%未満	96%	A	アンケートの回収率は昨年の63%より上げることができた。しかし、面談において対面で依頼をしたり配信による追加の依頼を行ったが、67%の結果であった。今年度は無記名のアンケートになったため、アンケート提出の責任感を感じなくなったこともあると思われる。 ボランティアの人材については積極的に協力を得る呼びかけをして、多くの協力を得てフリースペースや学習教室を実施するようになっている。 家庭学習については、昨年度より4ポイント増加している。	アンケートに関しては、三者面談や連絡システムを活用した情報配信で依頼を行ったが、回収率が70%にも届かなかったので、個別に未回答者に文書等で再依頼し、多用な中でも確実にご協力いただけるような依頼に取り組む。また、来年度も年間を通して情報配信を積極的に行い、保護者に教育活動全般の理解を求めていく。 家庭学習に関しては昨年度より4ポイント増加しているが、肯定的評価がDの70%未満なので、改めてMNE【家庭学習編】の確認を教員・保護者に呼びかけ、意図的な活用を進めていく。	HPの頻繁な更新や不登校支援、ボランティア確保の努力は、保護者の理解や生徒の居場所作りに大きく貢献しており評価できる。 今後は保護者の来校機会を増やし、地域と連携した防災訓練などを通して相互理解をさらに深めるとよい。 MNE等の情報はtetoru等を活用した、意図的な発信が望まれる。授業内完結だと端末や教材を持ち帰らないが、小まめな課題提示等を通じて家庭学習習慣を確立させ、地域と連携した教育活動の質を向上させる必要がある。	B
			学校評価アンケートの回収率を向上させ、教育活動への理解を求める。	4　必要情報の90%以上を周知・意見交換 3　必要情報の80%以上を周知・意見交換 2　必要情報の70%以上を周知・意見交換 1　必要情報の70%未満を周知・意見交換	85%	B	4　アンケート回収および応答率90%以上 3　アンケート回収および応答率80%以上 2　アンケート回収および応答率70%以上 1　アンケート回収および応答率70%未満	67%	D				
		家庭・地域に信頼され、連携をさらに強める。	ゲストティーチャーや学校ボランティアなどを通し、地域に開かれた活動や連携した活動に取り組む。	4　学校ボランティアの月平均4回以上の活用 3　学校ボランティアの月平均3回以上の活用 2　学校ボランティアの月平均2回以上の活用 1　学校ボランティアの月平均2回未満の活用	7.5回/月	A	4　ボランティア参加人数の月累計4人以上 3　ボランティア参加人数の月累計3人 2　ボランティア参加人数の月累計2人 1　ボランティア参加人数の月累計1人以下	175%	A				
			「Machida　Next Education【家庭学習編】」を活用し、家庭学習を定着させる。	4　教員アンケートの回答で90%以上を達成 3　教員アンケートの回答で80%以上を達成 2　教員アンケートの回答で70%以上を達成 1　教員アンケートの回答で70%未満で達成	60.0%	D	4　保護者アンケート肯定的評価90%以上 3　保護者アンケート肯定的評価80%以上 2　保護者アンケート肯定的評価70%以上 1　保護者アンケート肯定的評価70%未満	59.0%	D				
確かな学力の育成	子どもが主体的に学び、教師が導く授業改革を進め、主体的・対話的で深い学びを実現することで、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力等とともに学び続ける力の育成を図る。	生徒が学習への興味・関心を高め、主体的に学び続けられる環境の維持・向上を図る。	各教科のエリア、メディアセンターを活用し、効果的な掲示・表示等により、学習への興味・関心が高められる環境を整える。	4　90%以上の授業で実践 3　80%以上の授業で実践 2　70%以上の授業で実践 1　70%未満の授業で実践	77.0%	C	4　生徒アンケート肯定的評価90%以上 3　生徒アンケート肯定的評価80%以上 2　生徒アンケート肯定的評価70%以上 1　生徒アンケート肯定的評価70%未満	86%	B	教科のエリアを効果的に活用していて取り組みを各教科で実践している。授業に関連した内容の掲示物や実物を鑑賞できるような使い方をしている。生徒も教室移動時に足を止めてみている様子が見られた。 投稿チャレンジについては、学年ごとに取り組み方が異なり、自主課題としている学年については取り組んでいる生徒が少なかった。また、ネット検索で情報に接しやすくなっていることで学校図書の活用も減少傾向になっている。 授業においてICTを活用する場面が増えており、クロムブックを活用することが特別なことから、日常のことに変化してきている。	教科のエリアについては現状でも効果的に活用できているが、季節や年度での変化をつけることで継続的に興味関心を引く環境づくりをしていく必要があると感じた。 長期休業中の課題として投稿チャレンジを全学年で実施し、アウトプットの力の向上を図る。 ICTの活用について、さらに効果的な活用方法を検討・実施していく。具体的にはAIの活用を視野に入れ、授業の導入や提示資料、問題の作成などに活用していく。また、思考力の向上が課題となっている教科が多数見られた。改善していくために授業で扱う取り組み課題の改善も多角的な視点で実践していく必要がある。	ICT活用による基礎学力の定着や、教員の授業改善への熱意は高く評価できる。 ICTの利便性に加え、五感を用いた活動や対話を通した思考の深化、試行錯誤の共有させ、確かな学力を育んでほしい。 教科エリアの活用減少に対し、掲示の工夫で学習環境を整えることも求められる。 新聞活用の「投稿チャレンジ」や図書室活用の促進により、言語活動を活性化させたい。 ネットリテラシー向上には、学校からの発信やPTA主催の講演会などを通じた家庭への連携が可能である。	B
			ICTの効果的な活用を図り、個別最適な学習を保障するとともに、ネットリテラシーの醸成に取り組む。	4　90%以上の授業で実践 3　80%以上の授業で実践 2　70%以上の授業で実践 1　70%未満の授業で実践	82%	B	4　生徒アンケート肯定的評価90%以上 3　生徒アンケート肯定的評価80%以上 2　生徒アンケート肯定的評価70%以上 1　生徒アンケート肯定的評価70%未満	92%	A				
		分かる授業・楽しい授業の実践と指導の工夫・改善に取り組む。	学校図書館の活用や新聞への投稿などにより、「考える力」「読み解く力」「表現する力」の向上を図る。	4　80%以上の生徒が実践 3　70%以上の生徒が実践 2　60%以上の生徒が実践 1　60%未満の生徒が実践	230人	D	4　（新聞）投稿チャレンジ参加率70%以上 3　（新聞）投稿チャレンジ参加率60%以上 2　（新聞）投稿チャレンジ参加率50%以上 1　（新聞）投稿チャレンジ参加率50%未満	38.0%	D				
			創意工夫のある授業を推進し、基礎的・基本的な知識・技能と発展的な学力をバランスよく身に付けさせる。	4　90%以上の授業で実践 3　80%以上の授業で実践 2　70%以上の授業で実践 1　70%未満の授業で実践	82.0%	B	4　生徒アンケート肯定的評価90%以上 3　生徒アンケート肯定的評価80%以上 2　生徒アンケート肯定的評価70%以上 1　生徒アンケート肯定的評価70%未満	80%	B				
豊かな心の涵養	多様性を尊重し、自分と共に他者を大切にする意識・意欲・態度を育てる。	自他の生命を尊重する意識を育てる。	教員の生徒理解や学級経営に関する資質や能力を向上させ、生徒一人一人の状況に応じた支援に努める。	4　90%以上の指導場面で実践 3　80%以上の指導場面で実践 2　70%以上の指導場面で実践 1　70%未満の指導場面で実践	96%	A	4　QUアンケートの学級生活満足群40%以上 3　QUアンケートの学級生活満足群35%以上 2　QUアンケートの学級生活満足群30%以上 1　QUアンケートの学級生活満足群30%未満	56%	A	QUアンケートの学級生活満足群は11月の実施で昨年度は49%であったが、7パーセント増加した。平均値が41%となっているところなので、行事等でやりがいを感じたり、諸活動に前向きに取り組み落ち着いた学校生活が送れている生徒の割合は多いと思われる。 いじめ防止・体罰防止については研修や日常の教員の打ち合わせでも随時共有し、教員の意識は高くいじめ防止や認知・指導には即時の対応を確認している。 生徒の意識も高まっているが、いじめの根絶ができないことへの不十分感があると思われる。	hyperQUアンケートの結果を活用し、日常の様子の観察をもとに、学級への指導の工夫や学年教員による個に応じた指導、学年間での情報共有を継続する。年3回以上のいじめを取り上げた道徳の授業、LGBTQ+講演会等を今後も実践する。いじめ対応チームを毎月1回実施する中で未然に防ぐための対策を検討する時間を増やす。認知事案に対しては、早期対応でいじめ根絶の空気を醸成していく。教員・生徒ともに挨拶は日常の習慣とし、教員は挨拶プラス一言運動の励行を心掛ける。「なぜきまりが必要なのか」という視点を大切に、生徒・教職員・保護者の三者で校則を見直す検討を重ねる。	「あいさつプラス一言運動」やいじめへの早期対応により、職員・生徒の意識向上と良好な学級満足度が得られている点は高く評価できる。 来訪者への自発的な挨拶の習慣化も課題としたい。 ふれあい面談等の個別対応も成果を上げているが、道徳・人権教育への生徒の認識は高くない。ロールプレイの導入や、家庭での事前対話を促す公開授業など、指導法の工夫が求められる。 スキー教室での生徒主体の協働活動を糧に、生徒同士で高め合う指導の一層の充実を期待する。	A
			「あいさつプラス一言運動」を推進し、あらゆる場面で丁寧な言葉を使い、相手を尊重し、大切にする気持ちを育成する。	4　90%以上の指導場面で実践 3　80%以上の指導場面で実践 2　70%以上の指導場面で実践 1　70%未満の指導場面で実践	88.0%	B	4　生徒アンケート肯定的評価90%以上 3　生徒アンケート肯定的評価80%以上 2　生徒アンケート肯定的評価70%以上 1　生徒アンケート肯定的評価70%未満	93%	A				
		言語環境を整え、自律・規範意識を育成する。	望ましい集団活動を通して、規範意識を高め、互いの良さを生かして協働する力を伸長させる。	4　90%以上の指導場面で実践 3　80%以上の指導場面で実践 2　70%以上の指導場面で実践 1　70%未満の指導場面で実践	85.0%	B	4　生徒アンケート肯定的評価90%以上 3　生徒アンケート肯定的評価80%以上 2　生徒アンケート肯定的評価70%以上 1　生徒アンケート肯定的評価70%未満	91%	A				
健やかな体の育成	正しい生活習慣を身に付けさせ、丈夫な体とたくましい心を育てるとともに、自助・共助・公助の力を身に付ける安全指導・安全教育を充実する.	健康に対する意識を向上させ、生涯を通じて健やかに過ごせる体を育成する。	様々な運動やスポーツの魅力や楽しさを実感させ、体力向上を図るとともに健康教育を推進する。	4　90%以上の生徒が活動や行事に参加 3　80%以上の生徒が活動や行事に参加 2　70%以上の生徒が活動や行事に参加 1　70%未満の生徒が活動や行事に参加	90.0%	A	4　生徒アンケート肯定的評価90%以上 3　生徒アンケート肯定的評価80%以上 2　生徒アンケート肯定的評価70%以上 1　生徒アンケート肯定的評価70%未満	66%	D	体育祭ではほとんどの生徒が結果の向上を目指し練習に臨み、協力したり応援しあったりしながら、それぞれの生徒がベストを尽す姿が見られている。 自ら自覚して運動をする習慣がある生徒は66%という結果となっているが、体力向上の意識を高める取り組みの工夫が必要である。 積極的に水分補給をする生徒が増えた様子から、生徒の熱中症対策に対する意識は高まっていると思われる。 避難訓練時の生徒の動きに少しずつ改善が見られる。	体育祭実行委員会での協議検討を重ね、すべての生徒がスポーツの魅力や体力向上に対して前向きに取り組める環境づくりを継続して推進する。 季節の変わり目での学活での指導や保健だよりを活用して、生徒の感染症予防や熱中症対策への意識を高めていく。学校行事においても屋外での活動を制限することで、熱中症対策への意識の向上を図る。 様々な災害や災害による被害の場面を想定した避難訓練を実施し、学校全体での安全意識を高める。 学習進路部会などでキャリア教育の指導計画の検討を進める。	気候変動や地震等の安全指導は、グローバルな視点から当事者意識を高める工夫をkc望む。日常の生活環境への配慮や安心安全な栄養指導の充実も望む。 体力向上への意識が低いが、運動習慣の個人差に配慮し、誰もが楽しめる工夫が必要である。特に昼休みの校庭利用では、女子生徒も参加しやすい活動の提唱を期待したい。 安全意識やキャリア教育は高く評価できるが、今後も時代に即した健康・生活習慣指導を通じ、生徒自ら考え、改善する姿勢を育みたい。	B
			将来の夢と希望を膨らませ、社会の安全に貢献できる力を育成する。	危機回避能力の向上や防災、命を守る力を身に付けさせ、安全意識を向上させる。	4　教科横断的な授業や特別活動で年4回以上の指導実施 3　教科横断的な授業や特別活動で年3回以上の指導実施 2　教科横断的な授業や特別活動で年2回以上の指導実施 1　教科横断的な授業や特別活動で年2回未満の指導実施	20回	A	4　生徒アンケート肯定的評価90%以上 3　生徒アンケート肯定的評価80%以上 2　生徒アンケート肯定的評価70%以上 1　生徒アンケート肯定的評価70%未満	89%	B				
			職業に関する授業やMESE等を活用して、キャリア教育形成の基盤となる力や価値観を養わせる。	4　総合的な学習の時間等で年間4回以上の指導実施 3　総合的な学習の時間等で年間3回以上の指導実施 2　総合的な学習の時間等で年間2回以上の指導実施 1　総合的な学習の時間等で年間2回未満の指導実施	6回	A	4　生徒アンケート肯定的評価90%以上 3　生徒アンケート肯定的評価80%以上 2　生徒アンケート肯定的評価70%以上 1　生徒アンケート肯定的評価70%未満	81%	B				
その他	明日の登校を楽しみにできる学校づくり	進んで働き協力する喜びを知る生徒を育成する。	望ましい集団活動を通して、多様性を尊重する態度や互いの良さを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやる気持ちを育てる。	4　90%以上の指導場面で実践 3　80%以上の指導場面で実践 2　70%以上の指導場面で実践 1　70%未満の指導場面で実践	83%	B	4　生徒アンケート肯定的評価90%以上 3　生徒アンケート肯定的評価80%以上 2　生徒アンケート肯定的評価70%以上 1　生徒アンケート肯定的評価70%未満	85%	B	リーダーシップの育成に各学年で力を入れており、チームワークの在り方を諸活動の中で学び、集団生活の向上を実現している。	上級生が主となり全学年が関わる行事や専門委員会などで、下級生が手本の生徒像を意識する場面となるようにリーダーの指導を深める。	行事の生徒主体の運営や縦割りの学習支援はよい。 中核以外の生徒の意識向上や対話活動で期待を持てる学校生活の創出を望む。	B

取組指標の評価基準（結果数値からABCD評価へ）

取組指標平均	3．5以上	⇒　評価A
取組指標平均	3以上3．5未満	⇒　評価B
取組指標平均	2以上3未満	⇒　評価C
取組指標平均	2未満	⇒　評価D

※　学校独自に設定する場合は、枠内を修正明記してください。

成果指標評価基準

成果指標平均　８０％以上⇒評価A
成果指標平均　７０％以上⇒評価B

学校関係者評価の評価基準例

A⇒　取組・成果ともに十分評価できる
B⇒　取組・成果ともに評価できるが、さらに改善したい
C⇒　目標達成には至らないため、次年度の改善が必要
D⇒　重要な課題であるため、次年度、重点的に改善

※　学校からの十分な説明をもとに、学校運営協議会で成果と課題、改善点について協議する。